

第11期第11回 小平市廃棄物減量等推進審議会

事務局からの報告事項（メモ）

1 3月議会報告

(1) 代表質問

質問 政和会

「平成28年度予算と市政運営について」8点目

家庭ごみの有料化・戸別収集について、家庭ごみの有料化・戸別収集の実現に向けて、28年度から取り組みを進めていくことが必要と考えますが、なぜ、28年度具体的な準備に要する予算が計上されていないのか、見解を伺います。

答弁

家庭ごみ有料化・戸別収集でございますが、現行の小平市一般廃棄物処理基本計画では、家庭ごみの有料化、及び戸別収集への移行は、重点施策の一つとし、検討・準備を進めることとしております。

来年度の予算におきましては、平成29年度の一般廃棄物処理基本計画の見直しに向けた実態調査の中で、家庭ごみ有料化・戸別収集に関する事項も加えて市民アンケート調査を行うことを考えております。

また、引き続き、すでに家庭ごみ有料化・戸別収集を実施している市や、収集業者等の関連事業者からの情報収集等を行いながら、検討と準備を進めてまいります。

(2) 一般質問

質問 津本 裕子議員

「今こそ食品ロス削減に対する取り組みを進めよう」

- ① 食品ロスの削減に向けて、これまでの市の取り組みと今後の展開について伺う。
- ② 食品ロス削減には、事業者に対してと家庭に対しての両面からの取り組みが必要となる。市の役割をどのように捉えているか。市の見解を伺う。
- ③ 東京都から示された区市町村との連携による地域環境力活性化事業について、市の活用をどのように考えるか。
- ④ 飲食店のドギーバック活用の小平ルールを策定して、普及啓発に取り組みないか。
- ⑤ 家庭から出される食品ロスを減らすため、先進例に倣った取り組みができないか。
新発田市の食とみどりの新発田っ子プランや松本市の残さず食べよう30・10運動など取り組みないか。

答弁

- ① これまでの取組と今後の展開でございますが、平成25年5月に実施いたしましたごみ組成分析では、多くの未利用食品が、ごみとして出されている実態がございました。そのため、平成26年3月策定の一般廃棄物処理基本計画では、こつこつ小平「もったいない」が根づくまちとして、ごみを出さないこと、すなわち、リデュースを第一の方策とし、広報やイベントなどを通じて、未利用食品の削減に向けた啓発をすることとしております。

現在は、市報や市ホームページ等を活用し、買い物や調理の際に取り組んでいただけるよう、啓発を継続的に行っているほか、はかり売り、ばら売りを行っている市内のスーパーマーケットを、市ホームページでお知らせしております。

また、食べられるにもかかわらず廃棄されてしまう食品を、有効活用するため、小平市ごみ減量推進実行委員会との共催で、昨年3月のリサイクルきゅらばんから、

未利用食品の回収を開始いたしました。ごみを出される方の意識を変えていくことが、もっとも重要なことですので、引き続き、啓発と未利用食品の回収につきましても継続して取り組んでまいります。

- ② 市の役割でございますが、食品ロスの削減は、食品がごみになることがないように、事業者や市民の皆様に取り組んでいただく必要がございますので、市の役割といたしましては、そうした取組を促す啓発と情報提供を行うことと考えております。
- ③ 地域環境力活性化事業の活用でございますが、本事業のメニューの中に、食品廃棄物の発生抑制・リサイクル推進事業があることは、承知しておりますが、事業要件も多く、活用するには、関係団体等との綿密な調整なども必要となることから、現段階での活用の予定はございませんが、今後の活用事例などの情報収集に努めてまいります。
- ④ 飲食店でのドギーバッグ活用でございますが、食品ロス削減の取組としては、有効なものとして認識しておりますが、食品を持ち帰った客が体調を崩した場合の、飲食店側の責任や営業への影響についての問題が整理されることが必要と考えております。市といたしましては、こうした点も踏まえ、情報収集に努めてまいります。
- ⑤ 先進例に倣った取組でございますが、市では、先進例の取組を参考に、未利用食品の回収を昨年からはじめておりますが、新発田市の食と緑の新発田っ子プランのような食のサイクルを目的とした食育プランや、松本市の残さず食べよう30・10運動などを含め、引き続き、市として取り組めるものがないか、研究してまいります。

2 リサイクルきゃらばんについて

(1) 前回の実施報告

日 時：3月24日（木）午後1時から午後3時まで

場 所：サミットストア小平上水本町店

回収実績：陶磁器 1,430 kg、小型家電46kg、牛乳パック40kg、雑貨類50kg、
廃食用油30ℓ、未利用食品32kg（131品）

3 平成27年度 主な事業の取り組み状況について

(1) ごみ分別アプリの構築・運用

平成27年11月から、スマートフォン用アプリ「小平トピックス」の中に、ごみと資源の収集日カレンダーや出し案内等をお知らせするアプリを構築し、意識啓発や分別の周知徹底を図るため、運用を開始しました。

実績：平成27年10月末 885件 ⇒ 平成28年3月31日現在 4,642件

(2) 食物資源循環モデル事業

平成27年度は900世帯の参加を目指して、生ごみの資源化を実施し、ごみの減量や意識啓発に努めました。

実績：平成28年3月31日現在 936世帯の参加

(3) 陶磁器のリサイクル事業

リサイクルきゃらばん（拠点回収）やイベントを通じて陶磁器製食器を回収し、リサイクルを進め、燃えないごみの減量を図りました。

実績：陶磁器製食器回収量 約 6,530 kg 平成26年度；4,970 kg

(4) 小型家電リサイクル事業の拡大

平成25年9月から開始した小型家電リサイクル事業について、平成27年度は新たに中央図書館、仲町図書館、喜平図書館、上宿図書館、津田図書館及び大沼図書館に回収ボックスを設置しました。

実績：イベント、窓口、ボックス回収；2,809.5 kg 平成26年度；1321.8 kg

(5) リサイクルセンターの更新

老朽化したリサイクルセンターを更新する必要があることから、新たな施設を整備するための計画として、「小平市リサイクルセンター整備基本計画」を平成 28 年 2 月に策定しました。

計画では、資源物を処理する「資源化エリア」、啓発を推進するための「プラザエリア」、市民が誰でも利用できる「地域還元エリア」の 3 つのエリアを持つ施設として、整備計画を策定しました。

4 平成 28 年度 主な事業について

(1) 食物資源循環モデル事業 (予算額：13,235 千円)

平成 28 年度は 1,000 世帯の参加を目指して、引き続き、生ごみ（食物資源）の資源化を推進し、ごみの減量や意識啓発に努めます。

(2) 陶磁器のリサイクル事業 (予算額：1,065 千円)

引き続き、リサイクルきゃらばん（拠点回収）やイベントを通じて陶磁器製食器を回収し、リサイクルを進め、燃えないごみの減量を図ります。

(3) リサイクルセンターの更新 (予算額：28,453 千円)

平成 28 年 2 月に策定しました「小平市リサイクルセンター整備基本計画」に基づき、施設整備に向けた取り組みをします。

平成 28 年度は、各種調査、工事発注準備、運営手法の検討などを行います。